

I Samuel 1:24-28, 2:1-29

### サムエル、エリのもとへ連れて行かれる

(Iサムエル記1:24-28)「その子が乳離れしたとき、彼女は雄牛三頭、小麦粉一エパ、ぶどう酒の皮袋一つを携え、その子を連れ上り、シロの【主】の宮に連れて行った。その子は幼かった。彼らは、雄牛一頭をほふり、その子をエリのところに連れて行った。ハンナは言った。『おお、祭司さま。あなたは生きておられます。祭司さま。私はかつて、ここのあなたのそばに立って、【主】に祈った女でございます。この子のために、私は祈ったのです。【主】は私がお願いしたとおり、私の願いをかなえてくださいました。それで私もまた、この子を【主】にお渡しいたします。この子は一生涯、【主】に渡されたものです。』こうして彼らはそこで【主】を礼拝した。」

ハンナが主にささげものをたずさえていったとき、彼女は神さまへの自分の誓いを果たしました。彼女は、「私はこの子を主のところに連れて来るとお約束したのです。ここにこの子がおります。」

“貸す(lent)”ということばはハンナがサムエルを主への贈り物とすることを説明するには粗末なことばです。(訳注:日本語では「この子を主にお渡しいたします。」となっている文章が、英語では Therefore also I have lent him to the LORD、つまり「私はこの子を主にお貸しいたしました。」となっています。)この子を主の奉仕のために完全に引き渡すという彼女の決断は、取り消すことはできません。

## 2章

テーマ:ハンナの預言的な祈り。エリの邪悪な息子たち。

会見の天幕での幼子サムエル。さばかれたエリの息子たち。

ハンナの感謝の祈りは、預言的です。彼女はメシヤのことを初めて語っているからです。

エリの息子たちは邪悪な者で、祭司の役職にはふさわしくありませんでした。無名の預言者がエリに、彼の大祭司としての家系は絶たれ、神さまが忠実な祭司をお立てになる、と警告します。

### ハンナの預言的な祈り

これは、聖書の中の偉大な祈りのひとつです。

(Iサムエル記2:1)「ハンナは祈って言った。『私の心は【主】を誇り、私の角は【主】によって高く上がります。私の口は敵に向かって大きく開きます。私はあなたの救いを喜ぶからです。』」

「角」は力であり、また何かしっかりとつかまえることのできるものです。ハンナは「私の角(=力)」と言っていますが、それは、主にある自分の力を意味しています。彼女は、神さまが自分に息子をくださったと言う事実を喜んでいて、彼女は、不妊だったことで彼女をあざけった人々に対して勝ち誇ります。そして彼女は自分の救いを喜んでいて、現在の解放があったのです。

救いは、三つの時制で起こります。

(1)“私たちは救われました。”(We have been saved.)

(ヨハネ5:24)「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」

これはつまり、神さまがキリストの死によって、私たちを罪の罪悪感から解放してくださったことを意味します。これは“義認”であり、過去形です。

(2)神さまはまた、昔の神学者たちが「罪の汚染(the pollution of sin)」と呼んだ現在の罪から、私たちを解放してくださいました。“私たちは救われている(We are being saved.)”のです。これは、肉の弱さ、肉の罪、心の過失、そして意思の行動からの解放です。これは、ハンナが語っている、現在の解放です。これは、“聖化”で、現在形です。

(3)最後に、将来の死からの解放があります。肉体的な死ではなく、霊的な死です。

(ヨハネ3:2)「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」

これは将来の解放です。“私たちは救われる(We shall be saved.)”のです。これは“栄化”であり、未来形です。私たちは救われたのであり、救われているのであり、そして救われるのです。ハンナは、自分の救いを喜んでいました。

ヨナが、(ヨナ2:9)「…救いは主のもので」と言ったのを覚えておられるでしょう。詩篇記者は、何度も何度も救いは主のものであると繰り返します。偉大な救いの真理は、救いは神さまの恵みによる、ということです。つまり、私たちは神さまの恵みによって、惜しげなく義認されたのです。惜しげなく(freely)とは、「理由なしに」という意味です。神さまは私たちのうちに救いに値するものをなにひとつ見出されませんでした。神さまは、ご自身の中に説明を見つけられたのです。神さまは私たちを愛しておられるからです。

**(1サムエル記2:2)『【主】のように聖なる方はありません。あなたに並ぶ者はないからです。私たちの神のような岩はありません。』**

主は、旧約聖書では「岩」になぞらえられています。新約聖書の中では、主イエス・キリストは(1ペテロ2:6)「尊い礎石」と呼ばれています。

(1ペテロ2:6)「なぜなら、聖書にこうあるからです。『見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。』」

マタイ16:18でキリストが次のように言われたとき、主はご自分のことを話されたのです。

(マタイ16:28)「…わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。…」

ハンナが安息を見つけたこの岩は、私たちが今日安らぐ岩と同じ岩です。私たちの神のような岩はありません。

**(1サムエル記2:3)『高ぶって、多くを語ってはなりません。横柄なことばを口から出してはなりません。まことに【主】は、すべてを知る神。そのみわざは確かです。』**

私たちが祈りのうちに神さまの御前に出るとき、プライドが私たちをつまづかせないように、十分に気をつける必要があります。私たちは、自分たちの弱さと、不十分さと、無力さと、私たちは神さまに何かを要求する権利はないのだという事実を認める必要があります。ときどき、人々が「どうして神さまは私の祈りを聞いてくださらなかったのだろうか？」というのを耳にします。とても率直に言ってしまうと、なぜ神さまが私たちの祈りを聞かれなければならないのでしょうか？あなたには、神さまに対してどういう権利があるのですか？

もしあなたがイエス・キリストを救い主として受け入れているのなら、あなたには神さまに対するすばらしい権利があります。そしてイエス・キリストの御名によって、神さまのもとに行くことができるのです。神さまの子どもたちとして、私たちにはイエスさまの権利があります。でも、私たちの祈りは神さまのみこころにかなう祈りでなければならないということを覚えておかなければなりません。

**(1サムエル記2:4-6)『勇士の弓が砕かれ、弱い者が力を帯び、食べ飽いた者がパンのために雇われ、飢えていた者が働きをやめ、不妊の女が七人の子を産み、多くの子を持つ女が、しおれてしまいます。【主】は殺し、また生かし、よみに下し、また上げる。』**

この箇所全体の考え方は、神さまがいのちを与えられる、ということです。ヨブは次のように言いました。

(ヨブ1:21)「…【主】は与え、【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。」

神さまだけがいのちを与える力を持っておられます。そして神さまだけが、いのちを取り去る権利を持っておられます。私たちがいのちを与える力を持っていないのならば、私たちにはいのちを奪う権利はありません。今のところ、神さましかその力を持っておられません。本当に、神さまは使徒の働き5章の(もしもあなたがそのように呼びたいのならば、)アナニヤとサツピラの死の責めを負われます。神さまは、悪者をさばかれるという事実に関して、弁解をされるようなことはありません。彼らは死んで、神さまから引き離されるのです。神さまはご自分のなさることを弁解したりはされません。なぜでしょう？なぜなら、この宇宙は神さまのものだからです。私たちは神さまの被造物です。神さまは、宇宙をご自分のやりかたで運営しておられるのです。

そんなに前のことではありませんが、私はキリストを救い主として受け入れたものの、まだ多くのことを受け入れようとしないう大学生と話をしました。私は彼に言いました。「もし、キミが神さまがご自分の救いのご計画に従って働いておられることと、神さまがなさっていることが気に入らないなら、どこか別の場所に行って、キミ自身の宇宙を作り、自分の規則を定めて自分の思うようにやっていいんだよ。でも、キミが神さまの宇宙にいる限りは、神さまのやり方に従わなければならないよ。」もしも私たちが神さまのやり方に喜んで従うなら、神さまにひざをかがめ、神さまの祝福のもとに行くのは最高にすばらしいことです。

**(1サムエル記2:7)『【主】は、貧しくし、また富ませ、低くし、また高くするのです。』**

この節は、私たちの多くが持っている質問を浮かび上がらせます。

「なぜ、ある人々は金持ちで、ある人々は貧乏なんだろう？」

なぜ神さまがある人々が裕福になり、ほかの人々が貧しいことを許可しておられるのか、私には理解できません。率直に言って、私は神さまよりももっと上手に富を分配することができるように思います。でも、神さまはそれを私に任せてはくedisませんでした。それは神さまの仕事であり、いつの日にか神さまはそれを説明してくださるでしょう。私は、説明を待ちます。なぜなら、神さまがその答えをもっておられることを知っているからです。

**(1サムエル記2:8-9)『主は、弱い者をちりから起こし、貧しい人を、あくたから引き上げ、高貴な者とともに、すわらせ、彼らに栄光の位を継がせます。まことに、地の柱は【主】のもの、その上に主は世界を据えられました。主は聖徒たちの足を守られます。悪者どもは、やみの中に滅びうせます。まことに人は、おのれの力によっては勝てません。』**

人間は、自分の努力や権威や力によっては、神さまのために何ひとつ達成することはできません。今日のクリスチャンは、そのことを認める必要があります。あなたや私が、聖霊の力によってすることだけが有効と認められるのです。私たちは主に頼り、主に安らぐことを学ぶ必要があります。

**(1サムエル記2:10)『【主】は、はむかう者を打ち砕き、その者に、天から雷鳴を響かせられます。【主】は地の果て果てまでさばき、ご自分の王に力を授け、主に油そそがれた者の角を高く上げられます。』**

これは、聖書の中でもすばらしい節のひとつで、メシヤ(Messiah)という名が初めて出てくる箇所です。“油そそがれた者”とは、ヘブル語の“メシヤ”です。このことばはギリシャ語の新約聖書では“キリストス(Christos)”と訳されており、そこから英語の「キリスト(Christ)」が出ているのです。これは、主イエスの肩書きです。神さまはイスラエルに王国を建てることの準備をしておられます。イスラエルが神権政治を拒否したので、神さまは彼らに王を任命されます。

**(1サムエル記2:11)「その後、エルカナはラマの自分の家に帰った。幼子は、祭司エリのもとで【主】に仕えていた。」**

まるでサムエルが何かの保護の下に置かれているように聞こえるかも知れませんが、会見の天幕はそのような場所であるべきでした。でも、残念なことに、そうではありませんでした。

#### エリの邪悪な息子たち

**(1サムエル記2:12)「さて、エリの息子たちは、よこしまな者で、【主】を知らず、」**

エリの息子たちは「ベリアルの子供たち」、つまり悪魔の子供たちでした。(訳注:この「ベリアルの子供たち」というのは、日本語では「よこしまな者」と訳されています。)彼らは救われていませんでした。救われていない大祭司の子供たちが、会見の天幕に出入りして、実際にそこでミニストリーをしているのです！

多くの人たちが自分の息子をクリスチヤンの学校に送って、そのことにとても満足しています。私が今話していることを誤解しないでください。私はクリスチヤンの学校を神さまに感謝しています。問題は、その息子が良い場所にいるというので、親たちが彼のために祈るのをやめてしまうことです。その子は、想像する限り一番危険な場所にいるかもしれないのです。他の親たちは、自分たちの息子が立派な教会に行っているという事実で、安心しています。そのようなすばらしい教会に、悪魔も行っているのです！キリストが最後の晩餐をご自分の弟子たちと祝われた場所に、悪魔もいたことを思い出してください。その部屋は、そこに悪魔がいたことで、その夜エルサレムで最も危険な場所だったのです。良い教会や、良い学校に行っている子どもにも、祈りが必要だと言うことを思い起こす必要があります。その子は危険な場所にいるかもしれないのです。

この幼子サムエルは、危険な場所にあります。そして彼の母親は彼のために続けてお祈りすることは確かです。

(1サムエル2:13-16)「民にかかわる祭司の定めについてもそうであった。だれかが、いけにえをささげていると、まだ肉を煮ている間に、祭司の子が三又の肉刺しを手にしてやって来て、これを、大なべや、かまや、大がまや、なべに突き入れ、肉刺しで取り上げたものをみな、祭司が自分のものとして取っていた。彼らはシロで、そこに来るすべてのイスラエルに、このようにしていた。それどころか、人々が脂肪を焼いて煙にしないうちに祭司の子はやって来て、いけにえをささげる人に、『祭司に、その焼く肉を渡さなさい。祭司は煮た肉は受け取りません。生の肉だけです』と言うので、人が、『まず、脂肪をすっかり焼いて煙にし、好きなだけお取りなさい』と言うと、祭司の子は、『いや、いま渡さなければならない。でなければ、私は力づくで取る』と言った。」

彼らは主の働きにおいて、まったくもって不誠実でした。彼らは初期の宗教的金儲けのひとつをやっていたのです。

(1サムエル記2:17)「このように、子たちの罪は、【主】の前で非常に大きかった。【主】へのささげ物を、この人たちが悔ったからである。」

彼らの不正は、多くの人々を神さまから背かせました。イスラエル人たちは、会見の天幕でエリの息子たちがしていることを見て、主に引き寄せられるのではなく、主から遠ざけられました。みなさん。私たちは私たちの人生をどう生きるか、教会をどのように運営するか、気をつける必要があります。教会の中の罪に目をつぶり、それを覆い隠そうとすることは、人々を神さまから遠ざけることになるのです。このことは、今日の若者たちの反抗のひとつです。最近、私は100人以上のこのような若者たちが、キリストに立ち返るのを見るという特権に預かりました。私は彼らと話し、彼らの行動を見ました。彼らは組織化された教会に反対しています。なぜなら、そこには偽善があるからです。そのことは私を動揺させます。なぜなら、私はそこに偽善があることを知っているからです。エリの時代の会見の天幕とちょうど同じように。

#### 会見の天幕での幼子サムエル

(1サムエル記2:18-19)「サムエルはまだ幼く、亜麻布のエポデを身にまとい、【主】の前に仕えていた。サムエルの母は、彼のために小さな上着を作り、毎年、夫とともに、その年のいけにえをささげに上って行くとき、その上着を持って行くのだった。」

サムエルが、エリの不正な息子たちの影響下で育っている間、彼の母親は彼のことを忘れませんでした。ハンナは自分の幼い息子を愛していました。彼女はサムエルを神さまにささげると約束し、その約束を果たしました。そして、毎年彼女は彼のために上着を作り、それを彼に与えました。このようなこと以上に思いやりと愛情のあることは他にはありません。家内と私の最も大きな喜びのひとつは、小さなスーツや何か、洋服を孫のために選んでやることだと思います。これほど満足を与えてくれることはほかにはありません。ここで

私の心は、ハンナに同情します。(訳注:ハンナが1年に1度しかサムエルに会えないことをいっているのでしょうか?)

(Iサムエル記2:20-21)「エリは、エルカナとその妻を祝福して、『【主】がお求めになった者の代わりに、【主】がこの女により、あなたに子どもを賜いますように』と言い、彼らは、自分の家に帰るのであった。事実、【主】はハンナを顧み、彼女はみごもって、三人の息子と、ふたりの娘を産んだ。少年サムエルは、主のみもとで成長した。」

神さまはハンナによくしてくださいました。彼女には他に5人の子どもたちがありましたが、ずっとサムエルのことを忘れることはありませんでした。毎年、彼女は彼のために小さな上着を作ってやりました。そして、会見の天幕の悪い環境にも関わらず、サムエルは主のみもとで成長したのです。

#### さばかれたエリの息子たち

(Iサムエル2:22)「エリは非常に年をとっていた。彼は自分の息子たちがイスラエル全体に行っていることの一部始終、それに彼らが会見の天幕の入口で仕えている女たちと寝ているということを聞いた。」

エリは、自分の息子たちの罪に目をつぶる、甘い父親でした。彼らのひどく、とんでもない不道徳を見てください。「彼らが会見の天幕の入口で仕えている女たちと寝ている」というのです！今日、いわゆる「新しい道徳」ということについて、とてもおおくの取り沙汰がされています。エリの息子たちは、新しい道徳については、流行の最先端でした。実際、それは彼らの時代に、何も新しいことでさえなかったのです。不道徳は大洪水のときにまでさかのぼることができます。

(Iサムエル2:23)「それでエリは息子たちに言った。『なぜ、おまえたちはこんなことをするのだ。私はこの民全部から、おまえたちのした悪いことについて聞いている。』」

エリの息子たちがしたことは、イスラエルの中で公然のスクャンダルでした。そしてエリが彼の息子たちにしたことといえば、ほんのちょっと彼らの手をたたいたくらいのものであったのです。

(Iサムエル2:24)「『子たちよ。そういうことをしてはいけない。私が【主】の民の言いふらしているのを聞くそのうわさは良いものではない。』」

人々は、祭司たちがしていることを行っていました。エリの息子たちは、イスラエル人たちを罪に引き入れていました。この状況を正すための積極的な方策をとる代わりに、エリはそおと彼らを戒めただけでした。彼は甘い父親でした。

(Iサムエル記2:25-26)「『人がもし、ほかの人に対して罪を犯すと、神がその仲裁をしてくださる。だが、人が【主】に対して罪を犯したら、だれが、その者のために仲裁に立とうか。』しかし、彼らは父の言うことを聞こうとしなかった。彼らを殺すことが【主】のみこころであったからである。一方、少年サムエルはますます成長し、【主】にも、人にも愛された。」

この悪い状況の中でさえも、サムエルは神さまと人ともに愛されて育ちました。彼は神さまにささげられた者であり、彼は母親の関心と祈りに支えられていました。神さまはこれからサムエルを用いられます。

(Iサムエル記2:27-29)「そのころ、神の人がエリのところに来て、彼に言った。『【主】はこう仰せられる。あなたの父の家がエジプトでパロの家に属していたとき、わたしは、この身を明らかに彼らに示したではないか。また、イスラエルの全部族から、その家を選び、わたしの祭司とし、わたしの祭壇に上り、香をたき、わたしの前でエポデを着るようにした。こうして、イスラエル人のすべての火によるささげ物を、あなたの父の家に与えた。なぜ、あなたがたは、わたしが命じたわたしへのいけにえ、わたしへのささげ物を、わたしの住む所で軽くあしらい、またあなたは、わたしよりも自分の息子たちを重んじて、わたしの民イスラエルのすべてのささげ物のうち最上の部分で自分たちを肥やそうとするのか。』」

神さまは神の人を年老いたエリに送り、ご自分は祭司としてのエリとはもう手が切れた、と言われました。神さまはもうこれ以上、祭司を通して働かれることはなさいません。その代わりに、神さまは今、祭司として

の預言者 (priest-prophet) を起こされようとしていました。サムエルがそれです。彼は主のためにミニストリーをし、そして彼の役職は、預言者の役職となるのです。